

講習会で募ったアンケート調査には、情報化施工への期待として「工期短縮」「施工効率化」

「熟練技術者不足への対応」を上げる声が目立った。東北では、かつてないほどの広域で、多数の工事発注が出ているため、効率の良い施工と熟練オペレーター不足への対応が求められている。

ミリ単位の施工精度

例えば、3次元マシンガイダンス（3DMG）のバックホウは、設計図面を重機に読み込ませておき、GNS（全地球衛星測位システム）による座標と組み合わせることで、構造物の形状をオペレーターに指示できる。

3次元マシンコントロール（3DMC）のブルドーザーは、設計図面に書かれた形状に従って排土板を自動で動かしミリ単位の施工精度を確保する。仕上げ段階では、オペレーターは重機を前後に動かすだけでよい。

東北復興と情報化施工

岩沼でJCMMA講習会

下

オペレーターの経験はあるに越したことはないが、経験不足を補う力を持っている。ある受講者は「建設業は、他産業に比べて労働時間が長いが、

経験不足も補える施工力



多数の参加者でにぎわった講習会

知恵で利益がでるツール

このような技術で短縮できる可

で短工期を実現し、隣接工区の

能力がある」とアンケートに書き込んだ。「復興工事以外でも使いたい」という受講者もあった。

情報化施工のメリットは、合理化や品質向上、工期短縮、プロセス管理といった部分に力を発揮する。これは発注者から受注者までが共通して得られるものだ。

情報化施工は人札時の加算材料ではなく、知恵を使った者こそが利益を生み出せるツールなのだ。

メリットの周知

今回の講習会を企画した復興

一方、もっと周知されるべきメリットは「利益に結びつく」ということだ。ある道路会社では、民間の駐車場施工などに取入れ、従来よりも少人数、短工期で、従来より高い品質の工事を行っている。利益率も高い。新たなアイデアを生み出している。ある地場建設会社は、公共工事

ワーキンググループは、月に1、2度、東京・芝の機械振興会館の会議室で定期的な会合を重ねている。官民を問わず意思を持つ人たちが構成された有志グループが、自由闊達な意見交換で新たなアイデアを生み出している。（田中一博）

建設通信新聞

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|--------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中伊 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 日刊 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日本 |
| ⑬ 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日海 |
| 16. 建設工業 | | |